

浅間山夜分大焼之図は 史実を誇張したものか？

天明三年(1783年)の浅間山噴火の様子を記録した「浅間山夜分大焼之図」には、火口から巨大な火柱を上げて噴火する浅間山の姿が描かれている。実際にこのような噴火が起こったのだろうか。それとも、この絵は噴火を誇張して描いているものなのだろうか。



浅間山夜分大焼之図(美斎津洋夫氏蔵)

天明三年の浅間山噴火の様子を、南麓側から描いたもので、3回大爆発があり、火山弾八十斤(42kg)が飛び、上州のうち200ヶ村で人家焼失、降灰が雪のごとく激しく、100里(約400km)四方に及んだと記されている。

溶岩噴泉が 起きていた？

溶岩噴泉(ようがんふんせん、Lava fountains)は、粘り気の少ない高温の溶岩が、噴水のように空中に噴出する火山現象。

浅間山夜分大焼之図とキラウエア火山の溶岩噴泉の比較



浅間山夜分大焼之図

- ◀ 黒い噴煙 ▶
- ◀ 高く吹き上がる溶岩の柱 ▶
- ◀ 降下する溶岩のしぶき ▶

絵には溶岩噴泉との類似点が描かれている



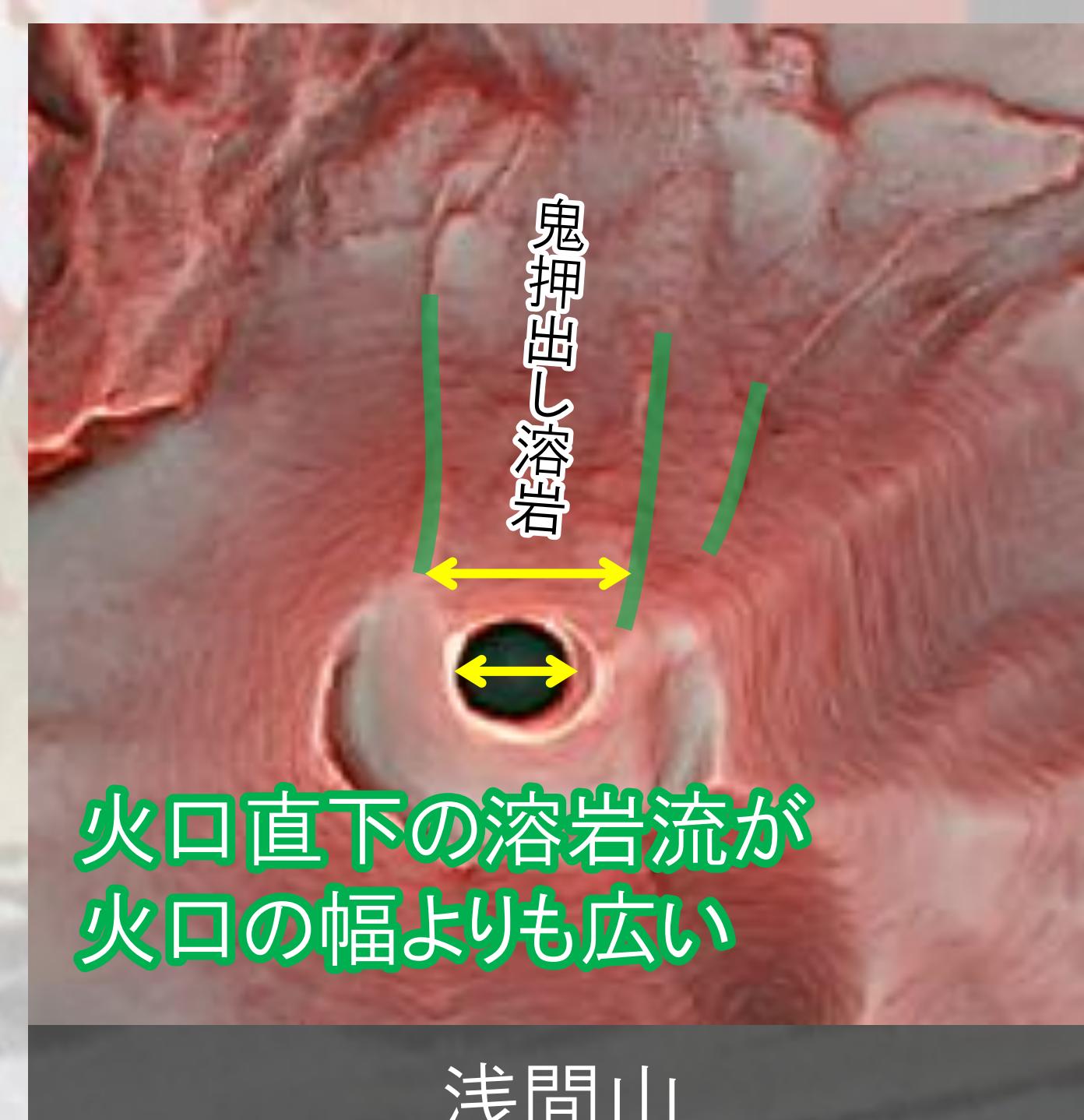
写真:米国地質調査所

キラウエア火山の
溶岩噴泉

地質学的な 証拠

地形の凹凸をわかりやすくした地形図※を見ると、浅間山から流れ出た鬼押出し溶岩には、通常の溶岩流とは異なる特徴が見られる。

浅間山の火口周辺の地形



鬼押出し溶岩は、火口近くに急速に堆積した火碎物が溶結を伴いながら流れた可能性を示している

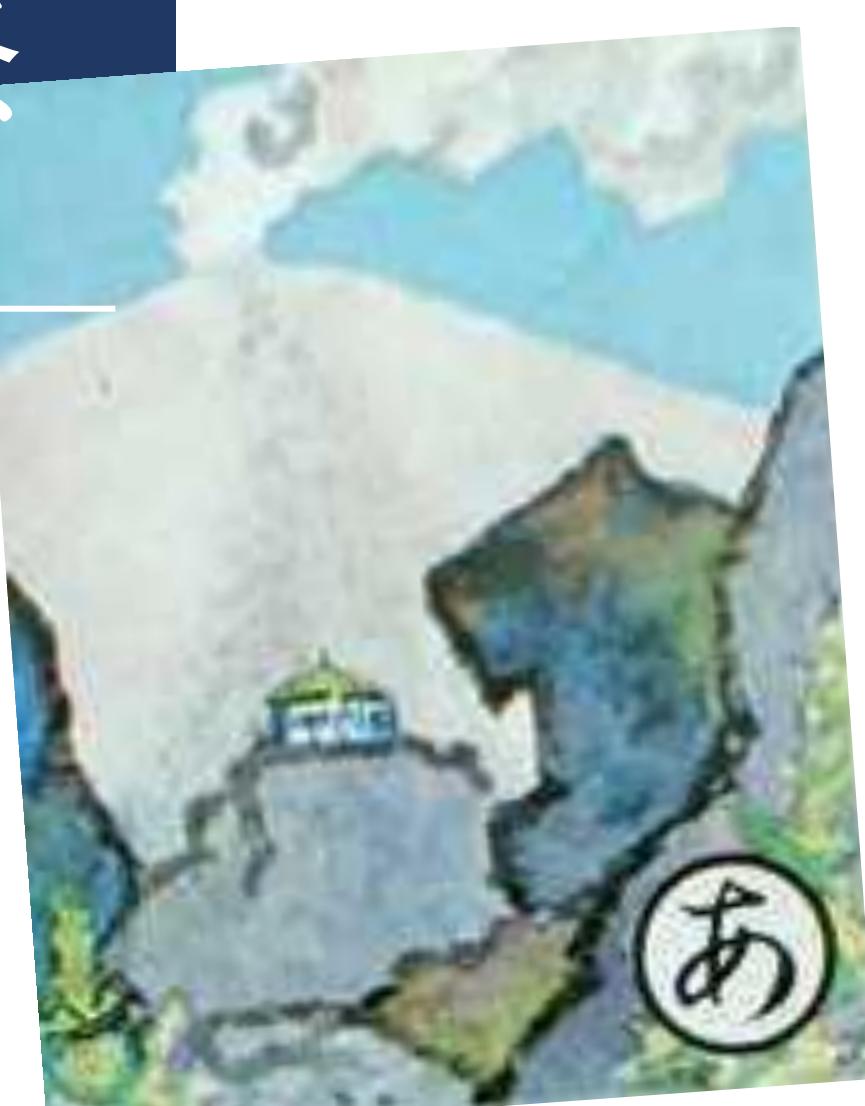
吹き出した溶岩が火口の近くに溜まってから流れた



溶岩噴泉が
起きていたことを示唆

考察

浅間山夜分大焼之図は、「鬼のいたずら」と思うほかない、人知を超えた噴火現象を、観察したままに記録し、後世に伝えるものだった。



上毛かるたに詠まれる
鬼押出し溶岩